

難病を生きる

—繋がりによる生の豊穡—

<公開講演会>

「船後靖彦ますますもって元気です」

船後靖彦 音楽仲間 大津弘之

「船後氏を支える意思伝達装置『伝の心』」

株式会社日立ケーイーシステムズ 岡 高志

「線維筋痛症の画家は

何のエクリチュールを選択し生きているのか」

耐え難い痛みの中で創作を続ける線維筋痛症画家 その生を見つめ、
動かぬ身を駆使して語るALS患者 過酷な病と闘いながら、希少な難病者を支える生

ALS(筋萎縮性側索硬化症):筋肉が急激に委縮する神経系の疾患。現在有効な治療法はない。

株式会社アース取締役
湘南工科大学テクニカルアドバイザー
ALS協会千葉支部会員(患者)

船後靖彦

<プロフィール>

船後靖彦(ふなご やすひこ)

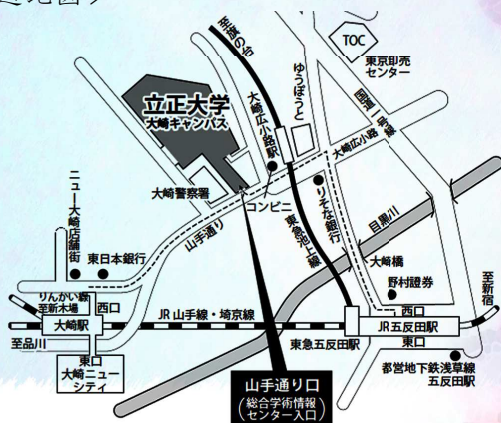
昭和54年拓殖大学経済学部卒業後、昭和56年に時計宝石輸入専門商社の酒田時計貿易(株)に入社するが、平成11年42歳でALSの告知を受ける。以後麻痺が全身に及ぶが、人工呼吸器を装着して、自作詩の発表コンサートやパソコン音声による講演、メールによる難病患者へのサポート、音楽活動、生命倫理やものづくりに関する学生への教育活動を展開している。

著書:『しあわせの王様』(小学館)2008年

『三つ子になった雲—難病とたたかった子どもの物語』(日本地域社会研究所)2012年



<周辺地図>



<開催予定>

会場：立正大学 11号館 1151教室

日程：11月10日(土)

時間：12:30~14:30

参加費：無料

※予約は不要です。会場に直接お越しください。

※駐車場はございません。お車でのご来場はご遠慮ください。

お問い合わせ先：itpsl@ris.ac.jp